

技術指導の具体例について

● 【与薬の技術】

経口薬の与薬

筋肉・皮下注射

点滴静脈注射

輸液ポンプ・シリンジポンプを使用した与薬

● 【活動・休息援助技術】

車椅子による移送

技術指導例

●与薬の技術

～経口薬の与薬～

【到達目標】

内服薬与薬（経口）についての基本を習得し、安全・正確に与薬が実施できる

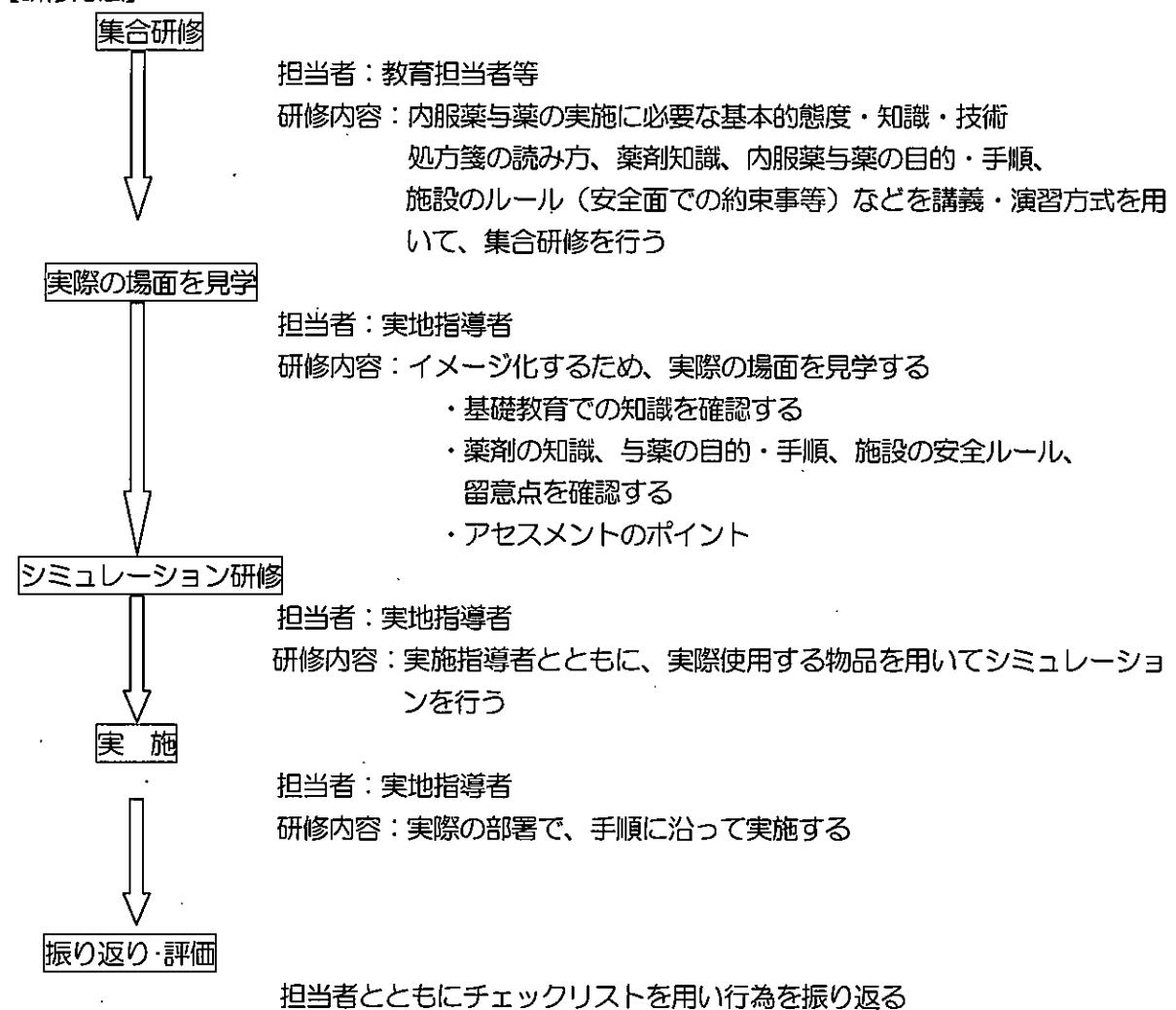
【到達までの期間】

1ヶ月～2ヶ月

【看護技術を支える要素】

- ・ 正しい薬剤知識がある
- ・ 患者確認を、医師の指示書等をもとに実施できる
- ・ 曖昧な点は医師や指導者に確認できる
- ・ 患者、家族へわかりやすい言葉で説明ができる
- ・ 患者の状況をアセスメントできる
- ・ 状況に応じた、与薬後の観察ができる

【研修方法】



手順	指導時の留意点												
<p>1. 準備</p> <p>① 内服指示箋で、患者氏名・薬品名・用法・用量の確認 ② 必要物品を準備する 内服薬、処方箋、トレイ、必要時白湯や薬杯</p>	<p>少しでも疑問や不安がある場合は、実施前に指導者等に申し出ることを強調しておく ・チェックリストで不十分な点は、指導や自己学習等後、再評価を行い、曖昧なままとしない</p> <p>1. 準備</p> <p>●新人看護職員の学習準備状況の確認 目的、薬剤の知識、リスクマネジメント</p> <p>・6R・3度の確認の意味と必要性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※6つのRight</p> <table> <tr><td>Right Patient</td><td>(正しい患者)</td></tr> <tr><td>Right Drug</td><td>(正しい薬)</td></tr> <tr><td>Right Purpose</td><td>(正しい目的)</td></tr> <tr><td>Right Dose</td><td>(正しい用量)</td></tr> <tr><td>Right Route</td><td>(正しい用法)</td></tr> <tr><td>Right Time</td><td>(正しい時間)</td></tr> </table> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>※3度の確認</p> <p>保管場所から薬袋を取り出すとき 薬袋から薬を取り出すとき 薬袋を保管場所に戻すとき</p> </div>	Right Patient	(正しい患者)	Right Drug	(正しい薬)	Right Purpose	(正しい目的)	Right Dose	(正しい用量)	Right Route	(正しい用法)	Right Time	(正しい時間)
Right Patient	(正しい患者)												
Right Drug	(正しい薬)												
Right Purpose	(正しい目的)												
Right Dose	(正しい用量)												
Right Route	(正しい用法)												
Right Time	(正しい時間)												
<p>2. 実施</p> <p>① 患者への挨拶・言葉かけを行う ② 患者の観察 誤嚥防止のため意識状態の観察 必要時食事摂取状況の確認</p>	<p>・今までに経験した内容や回数 ●対象患者にこの薬剤を与薬する理由を把握 ・対象患者の把握(薬剤禁忌、アレルギーの有無)</p> <p>以上を確認後、準備を見守り、ベッドサイドへ同行する(不十分な場合は見学とし、自己学習を促す)</p> <p>2. 実施</p> <p>見守りながら、不十分な点をサポートする</p> <p>・患者状態のアセスメント、誤嚥防止 ・剤型(散剤・錠剤・水薬)や量が対象患者に適切か確認できる ・言葉かけをしながら観察できる</p>												

<p>③ 患者氏名の確認 フルネームで名乗ってもらい、または患者識別バンド等での確認</p> <p>④ 患者への説明および同意を得る</p> <p>⑤ (可能な場合) 患者と共に薬剤・氏名を確認</p> <p>⑥ 誤嚥防止のための体位(前屈座位が望ましい)を援助する</p> <p>⑦ 内服薬を与薬する 確実に服用されたか、確認する</p> <p>⑧ 内服後の観察(特に呼吸状態)</p> <p>⑨ 使用した物品を片付け、患者の体位、周囲の環境を整える</p> <p>⑩ 患者への挨拶・言葉かけをして退室</p> <p>⑪ 必要に応じ、バイタルサインなど、与薬後の患者状態を観察する</p> <p>3. 後片付け、実施記録</p> <p>① 使用した物品類を定位位置へ戻し、手洗いを行う</p> <p>② 内服薬与薬の実施記録(押印、サインなど含む)をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者誤認の防止ができる(フルネームでの確認を習慣づける) ・一方的でない、ゆっくりとわかりやすい説明ができる ・患者参画を促すことができる ・誤嚥防止のため、適切な体位への援助ができる必要時、安楽枕やクッションを利用する ライン類が留置されている場合は、引っ張らないように特に注意する ・内服後の誤嚥防止に注意できる ・安全に配慮した環境調整ができる ・与薬後の観察が必要な薬剤・患者状態の把握ができる <p>3. 後片付け、実施記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施記録を確認する ・一連の看護行為の振り返りと一緒にを行い、プラスのフィードバックとなるように、チェックリストに沿って、出来たところと次回の目標を確認する
---	--

内服薬与薬チェックリスト

氏名 ()

○一人でできる △助言があればできる ×不十分（再度指導・確認を要する）

目標到達期間 □1ヶ月 ■2ヶ月

確認項目	実施月日	自己評価	他者評価
①内服薬与薬について、基本的知識・技術（薬剤の作用副作用、目的、与薬時の注意点など）、安全面のルールを述べることができる			
②指示書に書かれてある内容が理解でき、説明できる			
③内服薬の薬理作用を述べ、当該患者に投与する理由を述べることができる			
④必要物品が準備できる			
⑤患者への挨拶、言葉掛けができる			
⑥患者氏名の確認をフルネームで行うことができる			
⑦患者状態の観察、アセスメントができる			
⑧患者へわかりやすい説明を行い、同意が得られる (質問時、答えることができる)			
⑨与薬時、適切な体位が援助できる			
⑩与薬行為を安全・正確に行うことができる			
⑪内服後の患者状態を観察できる（特に呼吸状態）			
⑫周囲の環境を整備し、患者へ挨拶をしてから退室できる			
⑬必要時、実施内容を指導者等に報告できる			
⑭必要時、看護記録に記載できる			
<u>コメント</u> （今後へのアドバイスなど）			